２０１８／１１／２５　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：主からの祝福を忘れない　３
聖書箇所：コリント人への手紙第一　１章４－５節

１コリント１：４をご覧ください。
ロンドンのウエストミンスターチャペルで約３０年牧会を務められたロイドジョンズ博士は、コリント教会についてこんなことを言います。「コリント教会の諸問題の根本的原因について、それは教会の本質を把握することに失敗したことである。」と。教会が何のために存在しているのか、何のために神が教会を建て上げられたのか、神が教会に何を望んでおられるのか――。私たちが既に見てきたように、「教会というのは神の目的によって神が呼び集められた者たちである」、神様がご計画を持ってご自身の目的に基づいて集められた者たちで、何となく集まったのではない。当然そこには神のご計画があり、教会には神のみことばに沿って生きていくという大きな使命があるのです。そして、「教会というのは、神が自分を召したということを自覚している人々の集まりだ」とロイドジョンズ博士は言っています。恐らくそういう思いを持って、きょう皆さんは集まってこられたと思います。私たちが神を礼拝するのは、私たちの心の中に神への感謝があるからです。神の成してくださった恵みに対して感謝をもって、礼拝をもって、私たちは応答するのです。ここに集まってくださった兄弟姉妹の皆さんは、神が私のような者に対して大変な祝福を与えてくださったことを自覚して、その思いを持って集まってこられたことを信じています。
教会というのは、神を愛する者として生まれ変わった人々の集まりです。みずからの罪深さに気づかされ、心からの悔い改めをもって主イエス・キリストが備えてくださった完全な救いを受け入れ、新しく生まれ変わった者たち。この人たちは主の大きな犠牲を常に覚えて感謝している人たちです。また神を愛するゆえに、神の真理への変わらぬ渇望をもってみことばから真理を探り、それを知り、理解し、その実践のために互いに励まし合いながら神の栄光を現す集まりだと言うことができます。救われたことを感謝している者たちの集まりです。ゆえにこのすばらしい神様の栄光が現されることを願いながら、生きている者たちの集まりです。
こうして教会とはどういうものかを考えた時に、我々ひとりひとりが考えるべきことは、自分がそのようなクリスチャンであるかどうかということです。本当に感謝を持って歩んでいるかどうか、神を愛するゆえに、この神のみことばに従い続けて行こうという思いを持って歩んでいるかどうかです。確かに我々の信仰生活は時間とともに、あってはならないことだし、悲しいことですが、神に対するかつての愛が薄れてしまったりします。かつて持っていた主にもっと仕えていきたいという情熱が冷めていったりする。ひょっとしたら皆さんの中でそういうことを経験されている方がおられるかもしれない。悲しいことに、コリント教会の問題というのは、神が彼らに与えられた大切な、そしてすばらしい祝福を忘れてしまったことにありました。みこころに従って生きていくよりも、自分たちの考えに沿って、肉に沿って歩んでしまっている傾向にあったのです。

☆主からいただいた祝福
そこでパウロはいま一度神があなたにどんなすばらしい祝福を与えてくださったのかを思い起こさせるのです。パウロは１－３節のあいさつの中にも神が与えてくださったすばらしい祝福を記していました。我々はその三つを見ました。

Ａ．「主の恵み」を得た
パウロは私は主の恵みをいただいた、救いにあずかり、大切な務めを神様からいただいたと言います。主がそのように働いてくださると。それは皆さんにも言えることです。

Ｂ．「主の所有」とされた
パウロは私は神に属する者として生まれ変わり、私の所有者は神なのだと言います。これは救われて初めて気づいたのであって、我々被造物はすべて神の所有物なのです。ただ私たちはそれを一方的に無視して、自分の人生だと言って好き勝手に生きてきたのです。こうして我々は罪ある者としての歩みを始めたのです。

Ｃ．「恵みを平安」を得た
三つ目に神から恵みと平安をいただいたのだと言いました。神様は私にこういう祝福を与えてくださったのだと。この喜びを感謝しているパウロがこのコリント教会にあいさつを送ったのです。

Ｄ．「神の恵み」をいただいた
４節から、パウロの教会に対する感謝が記されています。この感謝の中にも主の救いにあずかった信仰者たちが神からいただいたさまざまな祝福が記されています。ですから今朝も私たちは継続して、

我々クリスチャンに与えられた主の祝福について学んでいきます。なぜこれが大切かというと、あなたや私が主の恵みをしっかりと覚える時に、それが私たちの生き方を変えていくからです。ということは生活が変わっていない人は、ひょっとしたらあなたに与えられた神の恵みを忘れてしまっているかもしれない。いま一度神様の恵みに目をとめましょう。

まず四つ目の恵みとして記されているのは、４節「**私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。**」とあります。このように新改訳の第二版は訳していますが、この箇所を直訳すると、「私はあなたについていつも私の神に感謝している。なぜなら神の恵み、それはキリスト、イエスによってあなたがたに与えられました。」となります。パウロはコリントの兄弟たちのことを覚えるたびに感謝をしていたと、この箇所が教えます。しかもこの感謝するという動詞は現在形を使っています。継続してパウロはこのコリントの教会に対して感謝を捧げていたことがわかります。

では一体パウロは何を感謝したのかです。この箇所が教えるように「**神の恵みのゆえに**」と書かれています。つまりパウロはコリントの教会の愛する人たちを思うたびに彼らに及んだ神の恵みを覚えて感謝したのです。神のすばらしい恵みが与えられたことを感謝し続けていたことをこの箇所は我々に教えてくれます。ですから四つ目の祝福は「**神の恵み**」をいただいたことをこの４節で教えます。

１．救いは神の恵み

そしてこの「**神の恵み**」とは、言うまでもなく救いのことです。パウロは４節で「あなたがたに与えられた救いのゆえに」と語ってもよかったのですが、あえて彼は「**神の恵み**」ということばを用いています。恐らくパウロがこういうことばをあえて使ったのは、読者たち――コリントの教会のクリスチャンたちがいま一度神様の犠牲を覚えるため、救いが彼らにとってふさわしくないものであるということを改めて彼らに思い起こさせるためでしょう。パウロはこの兄弟姉妹たちがいま一度「**神の恵み**」を思い起こすようにと働くのです。この「**恵み**」ということばは「誰かに対する好意的な態度」とか「慈悲深く惜しみなく与えられるもの」と辞書は定義します。また３節のあいさつにも「**恵み**」ということばが使われています。確かにこういう意味を持ったことばなのですが、このことばが救いに関して用いられた時は特別な意味がありました。「**恵み**」というのは罪人である私たちに値しない神の祝福です。

◎あなたに救いが与えられた理由

あなたが神からいただいた救い、今喜んでおられるこの救いというのは１００％神様のみわざでした。あなたが一生懸命努力をして勝ち取ったものではなく、１００％神様から与えられたものでした。

①　神があなたを愛してくださったから

少し思い出してください。あなたが救われたのはあなたが何かをしたからではない。まず神があなたを愛してくださったからです。みことばはそう教えます。「**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**」（１ヨハネ４：１０）、あなたがこの救いにあずかったのは、まず神があなたを愛してくださったからです。私たちは神によって愛される資格があるかというとそうではない。私たちは神様の愛に値しない存在です。でもそれを十分知った上で、神はまずあなたを愛してくださった、だからあなたはこの救いにあずかっているのだと聖書は教えます。

②　神があなたを選んでくださったから

二つ目に神がただあなたを愛しただけではない、神があなたを選んでくださったからあなたはこの救いにあずかったのです。ヨハネ１５：１６には「**あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。**」と記されています。残念ながら私たちは、神を愛する者として生まれてきませんでした。かえって神を憎む者として、神でない者を愛し仕えるという道を我々は選択して生きてきたのです。私たちは生まれながらに神を愛していなかった。でも神が愛してくださったからこの救いにあずかったのです。あなたも私も神を選ぶことはなかったのです。神が選んでくださったから私たちはこの救いに招かれたのです。あなた方が私を選んだのではない。私があなたがたを選びあなた方を任命したと。これが聖書の教える救いなのです。

③　神があなたの罪の代価を支払い、救いを備えてくださったから

三つ目にあなたが救いにあずかったのは、神があなたの罪の代価を支払い、救いを備えてくださったからです。あなたが救いにあずかったのはあなたが何かをしたからではない。神が一方的にあなたの罪の代価をあなたに代わって支払ってくださり、あなたのために救いを備えてくださったからです。１ペテロ２：２４に「**自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。**」とあります。イエス様は自分から進んであなたの身代わりとなって十字架に架かってくださった。「**キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。**」と。イエス様の十字架があったから、あの身代わりの死があなたにこの救いを与えてくださったのです。「**キリストの打ち傷のゆえに**」、イエス・キリストの死ゆえにあな

たがたは癒されたと。だからこの救いというものを考える時に、あなたではなくて神があなたを愛してくださり、あなたではなくて神があなたを選んでくださり、神があなたの罪の代価を代わりに支払ってくださった。そして、ご自分のいのちをもって救いを備えてくださった、だからあなたはこの救いにあずかったのだと。

④　神が信仰へと導いてくださったから

　そしてもう一つ、神があなたの心に働き、罪の悔い改めへと、そして信じる信仰へと導いてくださったからです。我々は誰ひとりとして神の前に罪を犯しているとは思っていませんでした。私たちは案外いい人間だと思って、きっと自分は死んでも天国に行けるとどこかで思いながら生きてきた。でも聖書に触れた時に、創造主なる神の目で自分を見た時に、自分は永遠の滅びがふさわしい存在だということに気づかされた。そして私たちの罪を悔い改めて、主が備えてくださったすばらしい完全な救いに私たちが心を開いてそれを受け入れようとしたのは、それはすべて神のみわざだと聖書は教えます。

　福音はまずユダヤ人に広がっていきました。ところが神は不思議な方法でその福音を今度は異邦人の方へともたらしていきます。コルネリオが救われました。その救いに立ち合ったペテロ自身がエルサレムに戻った時に、教会の中で割礼を重んじている者たちはペテロを非難しました。ところがペテロがそのすべてのいきさつを話した後で、この人々が口にしたことはこうでした。「**神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。**」（使徒１１：１８）と。ユダヤ人だけではない、異邦人にもこのみわざがなされたのです。悔い改めというのは「**神の恵み**」だということを彼らはわかっていました。神が働いてくださり、罪を示してくださり、そして救いが必要であることを私たちに悟らせてくださり、救いを求めさせてくださり、そして神の前に心から罪を悔い改めて神が備えられた唯一の救い主を信じようとする。それは神の働きだと。「**神の恵み**」なのだと。私はそれを覚えて神に感謝し続けているのだと。このようにして神はあなたたちのうちに働き、このすばらしい救いへとあなたたちを導いてくださった。だからパウロはその「**神の恵み**」を感謝したのです。

２．救いは神の賜物

　同時にこの４節のみことばは救いは神の賜物だということを教えています。どこでわかるかというと、４節「**あなたがたに与えられた神の恵みのゆえに**」と書いてあります。「**与えられた**」という動詞が受動態で書かれています。あなたたちが努力をしていたのではなくて、あなたたちに一方的に与えられたのです。あなたたちはその恵みを受けたのです。エペソ２：８に「**あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物**」だとあります。この箇所が三つのことを我々に教えてくれています。どういうことかというと、「**あなたがたは、恵みのゆえに**」救われ、しかもこの救いというのは「**神からの賜物**」なのだと。ここでまず最初に「**恵み**」とあります。今見てきたように、我々の誰ひとりとしてこの「**恵み**」に値する人はいません。私たちに値しない神様からの祝福です。「**恵みのゆえに**」あなたたちは「**救われた**」のです。神があなたを憐れんでくださり、この救いをあなたに与えてくださった。この「**救われた**」ということばも受動態です。今私たちが学んでいるのと同じです。みことばが繰り返し私たちに教えるのは救いというのは人間の行いによって得るものではないということです。これは「**神からの賜物**」です。それが三つ目に出てきた「**賜物**」です。この「**賜物**」というのは「与える」とか「許可する」とか「ギフト」という意味です。こうしてみことばは、私たちにこのすばらしい罪の赦しは神様から私たちに与えられるプレゼントだと教え続けてくれています。

　イエス様が地上に来られた時、こんなことを言われました。「**わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。**」、ヨハネ１０：２８です。大変大胆なことをイエス様は言われました。わたしは彼らに永遠のいのちを与えたいと願っていますとか、与えることを希望していますとか言わず断定しておられます。「**わたしは彼らに永遠のいのちを与えます**」と。イエス様がこのように言われたのは、イエス様には永遠のいのちを与えることができるからです。主は永遠のいのちを与えることが可能だからです。与えることのできないものを与えると言ったら、これはうそです。イエス様はうそを言われたのではない。イエス様は真実をお話になった。確かにイエス・キリストは求める者に永遠のいのちを与えることがおできになるのです。

　ではなぜそう言い切れるのかです。それはイエス様だけが罪人の罪の代価を支払ってくださった救い主だからです。ヘブル人への手紙の著者は大変わかりやすく私たちに真理を教えてくれています。ヘブル９：１２「**やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。**」とあります。その中にすばらしい真理が記されています。神がこの十字架までの間、人間の罪を赦すためにどのような約束を与えられたかというと、罪を犯した人間はその罪のためにいけにえを捧げるということでした。しかし、いけにえを捧げてもその人のすべての罪が

永遠に赦されるわけではなく、それを繰り返さなければならなかったのです。彼らはそれを繰り返すたびに神が約束された神の子羊、完全に永遠に自分たちの罪を取り除いてくださる救い主を待望したのです。それが神の約束だったからです。このヘブル９章の中で著者は「**やぎと子牛との血によってではな**」いと言っています。つまり動物のいけにえによってはこの完全な救いを与えられることはない。ご自分の血によって、つまりイエス・キリストの血によって、その死によって、永遠の贖いを成し遂げられたと。すごいことを言っておられます。イエス・キリストはただ一度十字架であなたや私の身代わりとして死んでくださることにより、私たちのために完全かつ永遠の贖いを、救いを成し遂げられたのです。終わったのです。十字架上でイエス様がすべては「**完了した。**」と言われた。主イエス・キリストによって完全な救いが備えられたのです。私たちはその救いにあずかったのです。この救いは決して失われることがない、永遠に私たちのものです。イエス・キリストの死という大変高価な犠牲に基づいて、この救いが完成し、私たちは恵みによってこの救いにあずかったのです。

ヨハネはヨハネの黙示録１：５で「**イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、**」と書いてあります。イエス・キリストの血潮によって、イエス・キリストのいのちによって私たちを罪から解き放ってくださった。これが神があなたのために成してくださったことです。神様はこのすばらしい永遠の救いをあなたに賜物として、ギフトとして与えてくれたのです。そして言うまでもなく、我々は信仰によってのみこの神の恵みを得ることができるのです。

非常に感謝なことに、みことばは私たちに神様のみこころを明確に示してくれています。ガラテヤ２：１６に「**しかし、人は律法の行ないによっては義と認められず、**」と書いてあります。律法を行うことによっては、つまり人はどんな行いをどんな徳を積んだとしても、どんな立派なことを行ったとしても、どんな良いことを行い続けたとしても行いによっては義と認められない。神はあなたを正しいとは決して言われないのです。人間の作り出した宗教に救いがないのは、それは人間が神に近づくために考え出したものだからです。どんなにすばらしい行いをし続けたとしても、神が言われるのはまだ不十分、完全なる神様の要求に達することはないと。パウロが「**人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。**」（ガラテヤ２：１６）と言うように、誰が読んでもわかるようにみことばは教えてくれています。私たちがこのすばらしい神様の祝福に、救いにあずかるのはイエス・キリストを信じる信仰によってのみだと知ったから私はそれを信じたのだと。「**これは、律法の行ないによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもいないからです。**」、あなたの罪の赦しをいただくすべはただ一つ、このイエス・キリストによってのみであると、この方を信じる信仰によってのみあなたの罪は完全に永遠に赦されるのだと聖書は私たちに明確に教えます。

もう１カ所、テトス３：５に「**神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。**」とあります。この５節を直訳すると、「私たちが行った義の行いによってではなく、神ご自身のあわれみによって私たちを救ってくださった。新生の洗いと聖霊による更新によって。」と、パウロは記したのです。この箇所も明確に我々が良いと、私たちが正しい、私たちがきよいと思う「**義のわざ**」によって救われたのではなく、神ご自身の憐れみのゆえに私たちは救われたのだと教えています。そこで「**聖霊による、新生と更新と**」、直訳では「新生の洗いと聖霊による更新によって」と続きます。「**新生**」というのは「新しく生まれ変わる」ということです。新しく生まれ変わるための「**洗い**」、つまり「きよめ」と聖霊によって新しくされると。パウロはイエス様が言われたことをここで繰り返すのです。ニコデモと話した時に、イエス様は「**人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることが**」できないとヨハネ３：５で言われました。「**水と御霊**」――きよめと聖霊なる神様によって生まれ変わらなければ救いにあずからないという話です。このテトス３：５でも同じことを言うのです。新生の洗い、つまりあなたのすべての罪がきよめられることです。そして聖霊によってあなたが新しくされることです。何も異なった教えをしているわけではない。同じことを言っているのです。あなたは罪がきよめられ、聖霊によって全く新しいものに造りかえられ、それによって私たちはこの救いにあずかるのだと。

こうしてみことばは私たちに、神様の救いという神の恵みをいただく唯一の方法はイエス・キリストを信じる信仰のみだと教えるのです。ですから私たちはこういうふうに言うことができます。救いというのはイエス・キリストによって備えられた完全な救いを、信じるすべての罪人に与えられる神の恵みです。救いは自分で自分を救うことのできない私たち罪人に神の一方的なご計画によって与えられる恵みだということです。いずれにしろ神がイニシアティブをとって、まず神が働いてくださる。愛してくださり、選んでくださり、そしてあなたの罪を贖ってくださり、そしてあなたに悔い改めと救いをもたらしてくださる。すべて神の恵みなのだと。パウロはこうしてこの手紙の読者たちに対して、このよう

な一方的な憐れみを私たちは神様からいただいていること、そしてこの神の恵みを覚える時に、これは罪人である私たちには値しない神様からの祝福なのだということをいま一度明らかにするのです。

さて、私たちも同様にそのことを覚えることが必要です。今私たちは死んでも生きるという希望を持って生きています。きょうが地上において最後の日としても、我々はその後どこに行くかわかっています。イエス様のもとに上がるのです。でもこのすばらしい祝福をいただいた私たち、この祝福をいただくために私たちは何もできなかったのです。すべては神がしてくださったのです。私たちのような者のためにご自分のひとり子であるイエス様をあの十字架に身代わりにはりつけてくださった。彼を殺して私たちにこの救いを備えてくださった。しかもこの救いに背を向け続けてきた私たちを、その心に働き、イエス様を信じるようにと神は働いてくださった。兄弟姉妹の皆さん、この犠牲に基づいてあなたも私もこの救いを楽しんでいるのです。こんな大きな犠牲によって今の私たちがいるのです。その主が与えてくださった恵みを忘れてはならないと。

Ｅ．「主の豊かさ」をいただいた

五つ目の祝福は、主の豊かさをいただいたということです。５節「**というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたから**」だとみことばが教えます。この「**豊かな者とされた**」ということばは、「何かに富む」とか「豊かになる」とか、「お金持ちにする」という意味のあることばが使われています。もちろんこの豊かさということばを見る時に、これはこの世の富によってでないことは明らかです。なぜなら、私たちがこの世のどんなものを得たとしても、それは私たちにこの豊かさをもたらすことはありません。もしこの語られている豊かさを私たちがお金によって得ることができるとしたら、間違いなく神様は私たちにお金を与えられることでしょう。でも神様がそれをお与えにならないというのは、それによってこの教えられている豊かさを私たちは得ることがないからです。本当の満足というのは神様だけがお与えになることができるのものです。この世でどんなに成功しようと、それによってこの神が教えてくださっている本当の満足を得ることはできません。パウロが教えようとしていることは、あなたは豊かな者とされたのだ、神様からこのすばらしい祝福をいただいたのだということです。あなたは神様によって何も欠けることがない、すべてに満たされた、本当の満足を持った人に変えられたのだ、その祝福をいただいたのだと教えるのです。この世のいかなる物を手にしたとしても、このような満足に達することはありません。神だけがこれを与えてくださる。

しかもこの祝福は、新約の時代の私たちだけではなく旧約でも同じことが神によって与えられているのです。「**主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。**」（詩篇２３：１）と。なぜダビデはそんなことを言ったのでしょう？彼が王だったからでしょうか？もちろん王だからいろいろなものを手にすることができたでしょう。でも彼が本当にすべてにおいて満足している、その理由は王だからではなかった。主が「**私の羊飼い**」だからです。神が「**私の羊飼い**」だから私は満足を持って生きることができると言っているのです。

１．すべてにおいて

もう一度５節を見てください。直訳すると「すべてにおいてあなたがたはキリストにおいて豊かにされたのです。すべてのことばとすべての知識において」となります。「**豊かな者とされた**」ことの説明があるのです。まずクリスチャンというのは、「**すべてにおいて**」豊かにされたのだと。その後でよりテーマを絞って、「**ことば**」と「**知識**」ということについてパウロは話していくのです。まず言いたいことは、「**すべてにおいて**」あなたたちは豊かにされたと。先ほどもダビデが言ったように、イエス様が繰り返し言われたことは、主が私たちのまことの羊飼いであって、この羊飼いである主は私たちの必要を満たしてくださり、心からの平安を持って歩むことができると。この羊飼いは私たちに心からの満足を持って生きることを可能にしてくださるのです。私たちに必要なことは、この神が私の羊飼いであり、この神があなたに主ご自身の豊かさを与えてくださるということを正しく理解することです。

例えばこんなことが言えます。主があなたの羊飼いだということは、この方があなたを常に正しい道へと導いてくださるということです。羊飼いの役割は羊を正しい道へと導き続けていくのです。ですから、この方はあなたをご自身のみこころに沿ってちゃんと導いてくださる。あなたの人生はあなたを造られた神によって導かれていくのです。あなたをお造りになった神はあなたに対して計画を持っておられる。その計画に基づいてこの方があなたを導いていってくださる。そんな人生をあなたは歩み始めたのだと言うのです。そうでなかったら、私たちはいつも迷っていました。でも救いにあずかるということ、この祝福にあずかるということは、これからの人生は私の創造主なる神が私を導いてくださる。この方のみこころに沿ってあなたも私も導かれていくということです。

同時にこの方は我々の日々の生活にあるさまざまな危険や悪から私たちを守ってくださる。それも羊飼いの役割でした。あなたがこの地上での生活を歩むに当たって、この方がちゃんとあなたを守ってく

れる。この方はあなたの必要をあなた以上に知っておられるゆえに、その必要を必ず満たしてくださる。片時もあなたを離れることなく、常に世の終わりまでもともにいてくださる。
　そういう人生をあなたはもう既に歩み始めたのです。これは誰か別の人の話をしているのではない。これがあなたの人生なのです。もっと言えば、あなたはこういう人生を生きることが神によって赦されたのです。当然私たちの肉はそれに反するようにと私たちを誘惑します。神を遠くに感じてしまったり、何か神が私のこと見捨ててしまったかのように思わせたり、自分の必要を自分で満たさなければいけないと思ったり。神という方はあなたの弱さを知っておられます。ゆえにあなたにとって必要な助けは必要な時に与えてくださる。神はあなたの罪深さを知っておられるからあなたがいちいち説明しなくてもいいのです。私は罪深い存在です。神はご存じです。その上であなたがその罪を告白するなら、その罪を赦し続けてくださる。あなたの臆病さを知っておられる。ですからこの方はあなたに必要な励ましを与え続けてくださる。私は愚かなのです。言うまでもありません。神はちゃんとご存じです。それを知っておられるゆえに神はあなたが求めるなら必要な知恵を与えてくださる。私たちは繰り返し失敗をする者です。神はそのことをご存じです。そして神は慰めと立ち直る力をあなたに与えてくださる。ペテロが罪を犯して主イエス・キリストを三度否んだ時に、あなたが立ち直ったら兄弟たちを励ましてあげなさいと主が言われた。我々も失敗を繰り返す者です。でも神はその失敗の中にあって立ち上がって主に従っていく力を下さる方です。信仰者の皆さん、この祝福がイエス・キリストを信じるひとりひとりに与えられたのです。だれか特別な人に与えられたという話をしているのではないのです。すべての信仰者に与えられているのです。
　たとえ必要が満たされていないと感じる時でも、問題が解決するどころかかえって大きくなっているように思える時でも、あなたがあなたの神を覚える時、神はあなたの心に働きをなしてくださる。言いようもない平安が神様によって与えられたことをたくさんの人たちは経験されているでしょう。だれかから一生懸命教えられて自分自身が納得してやっとわかったのではなくて、誰からも何も言われなくても、神が私のそばにいてくださることを経験された方もたくさんおられるでしょう。さまざまなことを通して私たちは神が言われたことは確かにそのとおりなのだということを学んでいるのです。神が言われたことに対する確信を私たちは日々強めているのです。いろいろなことを経験する私たち。その中で我々が神を見上げる時に、私たちが神に感謝できるのは神の愛は絶対に変わらないことを確信するからです。神は常に最善を成してくださることを確信するからです。神は絶対に私を見捨てないことを確信するからです。また、神はどんなことでもできる全能の方である、すべてのことを知っておられる全知の方であることを知っているので我々はこの方にすべてを委ねていこうとするのです。つまり我々は本当にすべての時に、神しか与えることのできない豊かな生活を満足を持って歩んでいくことができる、そんな人生を歩み始めたのです。それは可能になったのです。
　でもそのために、私たちは神の約束に立って生きているかどうかです。今私たちが見てきたのは、私たちがただ勝手に思いつきを話しているのではない、聖書が言っていることに立とうとしているのです。神がすべてのことを働きて益とするというのはどこから来ました？みことばから来たのです。神が必要を与えてくださるというのはどこから来ました？みことばから来たのです。神はあなたを見捨てない。どこから来ました？みことばから来たのです。神は全知だ、どこから来ました？聖書です。全能だ、聖書からです。つまり我々の信仰生活というのは、この神様が言われた真理に立って生きていくのです。これが私たちの確信なのです。
　確かに私たちの肉は、そういうふうに生きないようにと働くのです。私たちに自分が今経験している状況を見せるのです。体が弱いとか、病気だとか、銀行の預金が全くないとか、そういうものをいろいろ見せて私たちの目を神からほかの方向に向けようとするのです。それは希望を失いますよ、満足を失いますよ。悲しいことにそういう生活を送っているクリスチャンたちもたくさんいるのです。私たちは見えるものに頼って生きているのではない。私たちは見えるものにすべてを置いて生きているのではない。私たちは神にすべてを置いて生きているのです。私たちは神に信頼を置いて生きているのです神が私たちに約束してくださった祝福を知っている者たちは、それを信じて生きるのです。
　それを信じるだけではない。次に我々が神に問いかけることは、ではどうしたらこのようにすばらしい祝福を経験できるのかです。それは我々がみことばを受け入れて、みことばにしっかり立って、その約束を信じて歩んで行くことです。大切なことは、主を愛し、主を信頼し、そして主に従い続けることです。キリストにあって私たちは豊かな者とされたのです。主の豊かさを我々はいただいたのです。どんな時でも喜びを持って、どんな時でも満足を持って生きることができるのです。その本当の満足というのは、あなたが理想としている状況がもたらすものではないのです。神ご自身だけがあなたに与えることがおできになるのです。だから私たちはこの方を信じて、信頼して歩んで行くのです。
　パウロはこう言っています。「**私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。**」（ピリピ

４：１１）と。どんな境遇でも満ち足りているのです。「**あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。**」（ピリピ４：１２）、一体どこからこんな秘訣を得たのでしょう。パウロは神を見ているのです。どんな神なのか、どんなことを約束されたのか。それが我々の信仰であり、我々の希望だからです。またパウロはコリントの中でもこう言います。「**神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方**」（２コリント９：８）だと。「**常にすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために**」必要な恵みを神は十分にあなたに与えてくれる、これが神の約束なのです。だから私たち信仰者はどんなことがあっても常に心から満足を持って生きることができるのです。私たちだけではないですか？生きていて本当に良かったと言えるのは。今こんな大変な世の中にあっても我々だけですよ、生かされていることって感謝だと思えるのは。なぜなら神がともにいてくださるからです。この方に信頼を置いて生きることができるからです。パウロはこうも言っています。「**悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。**」（２コリント６：１０）、本当に満たされたひとりの信仰者の姿です。悲しみがなかったわけではない。心が痛むことがなかったわけではない。寂しさを感じなかったわけではない。いろいろな思いを抱かなかったわけではない。でも彼の心は神の与えてくれる満足で満たされたのです。その中で喜べたのです、感謝できたのです。

今我々がしっかり覚えなければいけないのは、我々クリスチャンがどんな祝福をいただいたかということです。この救いというすばらしい祝福を神は恵みとして私たちに下さった。その神はそこで終わったのではないのです。我々がこの地上にいて、ほかのイエス様を知らないすべての人がどんなに願っても、どんなにこの世の物を積み上げたとしても絶対に得ることのない豊かな人生を生きる者へと変えられたのです。どんな時でも我々は満足しているのです。どんな時でも喜んでいるのです。そのような歩みを私たちがすることによって、間違いなくあなたの周りの人々にあなたは影響を及ぼします。パウロがピリピの町を訪問した時に、彼とシラスは投獄されました。その後何が起こったのか――。パウロたちを投獄した看守たちがその家族もそろってイエス・キリストを信じるのです。使徒１６章です。では一体何が看守たちに起こったのかです。パウロたちが投獄された後、むち打たれていましたから血を流していたでしょう。そのような中で、もしパウロたちが今自分たちが置かれている状況を見て神に愚痴を言っているとしたら、多分こんなことは起こらなかったでしょう。彼らは違ったのです。聖書はこう言います。「**この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、**」（使徒１６：２４－２５）、足かせをかけられ、自由を奪われ、むち打たれ体からは血が流れ、そのような状況にあって彼らは神に感謝するのです。喜べない状況で彼らは喜んでいたのです。感謝できない状況で彼らは感謝していたのです。そしてその彼らを通して神のみわざがなされたのです。

豊かな人生を生きることを神から赦された信仰者の皆さん、そんなふうに生きていますか？どんな時でも神が約束された満足を持って、喜びを持って、感謝を持ってあなたは生きていますか？それが信仰者であるあなたに与えられた神からの祝福なのです。そんなふうに生きていけるのです。主を見上げなさい。主を信頼しなさいと。神のおことばに従うことによって、神はそのような人へとあなたをますます変えて行ってくださいます。こうして私たちの主をこの世に証していくのです。この後パウロはそのことを我々に教えてくれます。どうかこの祝福を覚えてこの１週間歩み続けてください。